

2012年7月20日

媒体社 各位

JFN (全国FM放送協議会) 事務局
TOKYO FM 編成制作局

「JFN賞2012」各賞決定！

「CM大賞」
TOKYO FM「走馬灯」(120秒)

「統一部門 キリン 麦のごちそう賞」
FM熊本「ケンカと乾杯」(40秒)

JFN学生ラジオCMコンテスト2012 最優秀賞
河内 明日美さん(東日本調理師専門学校/40秒)

※今回、企画部門の大賞は、該当作がございませんでした。

TOKYO FMをはじめJFN (全国FM放送協議会) 加盟38局が、放送活動並びに新規事業の活性化と質的向上を目指し、社会的影響力や企画力からJFNグループ全体の発展に大きく貢献した局を表彰する「JFN賞」各賞が決定いたしました。

本年度「JFN賞2012」の表彰式は7月19日、TOKYO FMホールで行われ、今年の「企画部門」優秀賞には、FM岩手の「かまいしの第九」支援プロジェクト、ふくしまFMの「全国へ！！世界へ！！こおりやま元気発信フェスティバル」、TOKYO FMの「ソーシャルラジオ」企画『SCHOOL OF LOCK！サマースクール～夏恋男塾』がそれぞれ選ばれました。

そして、「CM部門」の最優秀作品に贈られる「CM大賞」はTOKYO FM制作の「走馬灯」(120秒)、第1部門最優秀賞(20秒以内)にはFM沖縄制作の「ジョージア ザ・沖縄ブラック沖縄方言」(20秒)、第2部門最優秀賞(21秒以上)にはTOKYO FMの「子どもに質問」(120秒)がそれぞれ選ばれました。

さらにJFN加盟各局が協賛企業の提供するテーマのもと制作、優秀作を決する「統一部門賞」では、今回はキリンビール株式会社様の協賛を得、「キリン 麦のごちそう賞」を競った結果、FM熊本の「ケンカと乾杯」(40秒)が選出されました。前回のJFN賞より創設された天野祐吉賞、小野田隆雄賞、弘兼憲史賞には、広島FM制作の「“お好み” お好み焼き」(40秒)、FM山口制作の「笑いが止まらない」(40秒)、FM鹿児島制作の「都会のふるさと」(60秒)がそれぞれ選ばれました。

今回、初開催となった全国の学生が自身の学校をPRするラジオCMコピーを競う「JFN学生ラジオCMコンテスト2012」は、東日本調理師専門学校の河内明日美さんが最優秀賞を、広告デザイン専門学校の太田陽介さん・笹尾進さん、山口芸術短期大学の山下峻史さんがそれぞれ優秀賞を獲得しました。

今回の「JFN賞2012」について、特別審査員長の天野祐吉氏は「今の世の中を動かすのは、金ではなく、クリエイティブの力だと思う。3月11日以降、その思いが強くなった。クリエイティブというのは、小さなことでもいい。天才コピーライター、片岡敏郎氏が書いた赤玉ポートワインのCMは、「不景気か?」「不景気だ!」「赤玉ポートワイン飲んでるか?」「飲んでない!」「そうだろう!」というものだった。ダメな広告は明るく肯定するが、影が

ないとリアリティが出てこない。このCMは「飲んでない」と否定し、さらに「そうだろう！」という1行を加えたことが素晴らしい。この1行が、同時代の人々の嘆きを代弁し、全体をグッと立たせている。

これがコピーであり、クリエイティブだと思う。制作者には、そういう小さなところから、世の中を動かしていく仕事をして欲しいと思う」と述べました。

また天野祐吉賞には、広島FMが制作した、キリンビールの統一部門CMである「“お好み”お好み焼き」を選出しました。

特別審査員の小野田隆雄氏は、「ラジオCMには音しかなく、その音の中核は言葉なので、コピーライターへの責任は大きい。ただし良い言葉を連ねても、読み手が心情や感覚をつかんで読んでくれないと伝わらない。制作者はもっと「声の選択」に慎重になって欲しい」と述べました。また小野田隆雄賞には、FM山口が制作した、キリンビールの統一部門CMである「笑いが止まらない」を選出。「コピーが好きだった。夫婦でたまげなすのグラタンを作る、という設定だが、奥さんがほとんど笑っていて、こんな夫婦もいいなと思った」とコメントしました。

また、同じく特別審査員の弘兼憲史氏は、「今回の統一部門CMのスポンサーであるキリンビールは、非常に規制の厳しい会社である。ところが受賞したのは、あまりしぼりにとられない作品だった。制作者には、規制やしぼりにとられず自由な発想でいいものを作って欲しい」と述べました。また弘兼憲史賞には、FM鹿児島制作のさつま無双「都会のふるさと」を選出。「コピーライターの山路三保子さんの才能が素晴らしい」とコメントしました。

各賞の結果は次の通りです。

◎ JFN賞・企画部門

「JFN賞・企画部門」は加盟各局がエントリーした年間の放送・事業・営業活動事例をJFN各委員会委員長から成る「JFN賞選考委員会」にて選定されます。今年も、エントリー24社46件の中から、以下の各賞が決定しました。

■大賞

該当なし

■優秀賞

FM岩手／「かまいしの第九」支援プロジェクト

特別番組「かまいしの第九～響け！鎮魂と希望の調べ～」(平成23年12月28日放送)

特別番組「続・かまいしの第九～奇跡の中学生たちへのプレゼント～」(平成24年3月28日放送)

東日本大震災により甚大な被害を被った岩手県釜石市。そのような中、「かまいし第九の会」のメンバーが、開催の危ぶまれた市民手作りの恒例のコンサートに向けて立ち上がった。12月のコンサートに対し、公共放送や民放キー局、独国の映画会社からの取材オファーを全て断っていた同メンバーだが、FM岩手の地元局ならではの被災地への配慮と熱意が通じ、録音許可が下りることとなった。第1部の釜石東中学校(的確な避難のもと、震災当日に登校していた生徒が全員無事であったことから「釜石の奇跡」と呼ばれる)の生徒187人による合唱曲、第2部のかまいし第九の会による交響曲第9番は12月28日に特別番組として放送され、被災地に東の間の平穏と感動をもたらした。翌3月には、12月の同コンサートにおいて釜石東中学校の生徒が合唱したことが契機となり、その作者「アクアマリン」が同中学校を訪れ、プレゼント曲「いつかこの海をこえて」を披露した。この模様もFM岩手にて特別番組として放送され、好評を博した。(番組部門申請)

■優秀賞

ふくしま FM/商店街等の賑わい創出・販売促進のための地域活性化支援事業『全国へ！！世界へ！！ こおりやま元気発信フェスティバル』実施

東日本大震災による被害が大きく、被災地域における社会経済と生活の再建を図ることが課題となっている福島県。そのような中、ふくしま FM は地域コミュニティの担い手である商店街等の賑わいを創出し、地域商業の活性化を図る、被災地域の復興支援事業「こおりやま元気発信フェスティバル」を発案、計画。企画・運営はすべてふくしま FM が担い、幅広い支援・協力を得るため、郡山商工会議所との共催事業とした。郡山駅前のメインステージでは JFN フルネット番組の「COUNTDOWN.jp」等の公開生放送を実施、また、国・郡山市主催の「郡山市東日本大震災 1 周年追悼式」の運営協力を行い、2 日間で約 6 万人を集客し、大成功裡に終えた。(営業部門申請)

■優秀賞

TOKYO FM/総勢 130 万人が参加！ラジオと SNS がコラボした史上初の「ソーシャルラジオ」企画 『SCHOOL OF LOCK！サマースクール～夏恋男塾』

mixi とタイアップした“ソーシャルラジオ”企画「SCHOOL OF LOCK！ サマースクール～夏恋男塾」をユニリーバ・ジャパン“AXE”のキャンペーンとして展開。ラジオを聴きながらキャンペーンサイトにログインすると、mixi でつながる友人と教室でおしゃべりする感覚で放送を聴くことができる。キャンペーン期間中、133 万人が参加した。同期間中にはローソンのクーポンのプレゼントキャンペーン（毎日先着でプレゼントされる QR コードをローソンの店頭での Loppi にかざすことで無料券が発行され、対象商品と交換できる仕組み）も実施し、約 42 万人を店舗に誘引した。ラジオ発の SNS と連動した企画は各方面で話題となり、第 2、第 3 の企画の実施へと発展している。(営業部門申請)

■奨励賞

K-MIX/「マツダに願いを・・・」

マツダの新車購入資金 100 万円分 (1 名) プレゼント企画。「なぜマツダの新車が欲しいのか？」を静岡マツダの社長宛に応募し、社長が最も心を揺さぶられた応募者にプレゼント。400 件以上の応募の中から 68 歳の夫に新車をプレゼントしたいという妻が選ばれた。当選者発表時には、定年後、自宅に閉じこもり気味であった夫が PC の壁紙にまでするほど興味を示したマツダ車を贈ることで、これまでの感謝の念を伝えたいという応募文が紹介され、直後の夫妻との電話インタビューでは歓喜のあまり涙まで。番組にはリスナーから多くの反響が寄せられた。(番組部門申請)

■奨励賞

FM AICHI/ラジオ・ミュージカル「キミのために散る」

JFN 賞 2011 大賞、そして、第 48 回ギャラクシー賞ラジオ部門奨励賞を受賞した「ラジオ・ミュージカル 本能寺が燃える」を生み出した脚本家：あおい英斗氏が第 2 弾作品として、太平洋戦争で引き裂かれる日米の男女の悲恋を描いた。1951 年、アメリカのとあるバーが舞台。マスターと常連客の会話を軸に、戦時に生きた男女の絆を、生オーケストラ演奏にのせたクラシカルな楽曲がドラマチックなラブストーリーを盛り上げ、リスナーを本編に惹き込み、20～40 代女性を中心に大反響を呼んだ。(番組部門申請)

■奨励賞

広島 FM/特別番組「Tom Tom 東北へ行く」

昨年春に米国ナッシュビルから来広したアメリカ人 DJ トーマス・サマーズは、「日本の民謡はアメリカ先住民族の音楽に似ている」と語った。番組では、DJ トーマスが岩手県の南部牛追唄の歌手や津軽三味線の演奏者を訪ね、民謡の成り立ちや特徴について取材。歌い方や音階、楽器など様々な点における、民謡と世界各地の音楽とのつながりを紹介した。日本人と外国人の感じ方の違いや音楽の持つ面白さや不思議な魅力を追求した。(番組部門申請)

■奨励賞

FM 沖縄/TSJ 今夜もゲネプロ～緞帳あがります～民放ラジオ統一キャンペーン「ラジオがやってくる」

今年で 4 年目を迎えた民放ラジオ統一キャンペーン「ラジオがやってくる」。FM 沖縄では TSJ (チームスポットジャンブル) 劇団メンバーが、那覇市立寄宮中学校の生徒とオリジナルラジオドラマを制作し、後日「校内放送」にて放送した。また、FM 沖縄での放送では、ラジオドラマ

のほか、最初の打ち合わせから収録に至るメイキングを併せて放送することでよりラジオの面白さや魅力を感じてもらえる内容となった。このラジオドラマは中学校の道徳教育として使用されることが決定し、その模様は地元 2 紙でも大きく取り上げられた。(番組部門申請)

■特別賞

TOKYO FM/IP サイマル「ドコモ FM」の事業開始

2011 年 1 月にスタートした au の「LISMO WAVE」と同等のサービスを au 以外のキャリアユーザーが享受できるように、docomo 課金用、iTunes 課金用、google ウォレット用アプリと配信サーバー構築開発投資をし、2011 年 12 月 docomo (月額 315 円)、2012 年 3 月 iPhone/iPad (30 日 350 円) のサービスにこぎ着けた。時代の変化に対応した新しいリスナーを開拓するこの試みは JFN 全体の媒体力強化に直結する企画内容となっている。(番組部門申請)

■特別賞 (共同受賞)

FM 青森／平成 23 年度放送事故通期ゼロの達成

FM 長崎／平成 23 年度放送事故通期ゼロの達成

FM 大分／平成 23 年度における通期放送無事故の達成について

(FM 青森) 平成 22 年度に続き、23 年度においても放送事故ゼロを達成した。従来二人で確認作業を行っていたものを三人に増やすなど体制強化を図ることで 2 年連続無事故の達成となった。どんな些細なことでも疑問に思ったことを確認されることを励行し、また、スケジュール表や連絡事項は口頭ではなく、必ず文章に残すことも偉業に寄与した。

(FM 長崎)

平成 20 年は 5 件、21 年度は 3 件、22 年度は 3 件と事故件数を着実に減少させ、ついに 23 年度に放送事故ゼロを達成した。以前は発生した事故に対しての対処療法的な対応となりがちで効率の悪さがあり、他の事故を誘発しかねない状況であった。そこで CM、運行、パブリシティ等の基本作業を見直し、基本的チェックと確認を励行し、チェックの二重化を徹底したことが役立った。

(FM 大分) 平成 21 年度は 2 件、22 年度は 1 件の事故発生に続いて、ついに 23 年度に事故ゼロを達成した。発生した事故の多くを占めた人為ミスの原因を分析し、確認作業のシステム化を実施。連絡票の徹底、ダブルチェック制、そして、放送当日の声掛けを励行した。また、機器老朽化によって、想定できる事故への対策を講じた。事故を誘発した担当者を咎めず、事故発生の実態を正確に把握できる環境づくりをしてきたことも寄与している。(それぞれ事故対部門申請)

■地域賞

FM 青森／中国人向けインターネット番組制作・発信事業「一路青森！お助け！？モンちゃん！」

青森県から緊急雇用創出事業として主に中国語によるコンテンツを You Tube で情報発信する事業の委託を受け、2011 年 6 月から翌 3 月まで実施した。パーソナリティのモンちゃん(大連出身の留学生ジン・モンさん)のキャラクターがうけ、総アクセス数は中国で 1,900 万回を突破するなど青森県の認知度上昇に大きく寄与した。また、彼女は青森市から観光大使も委嘱されるなど、青森と中国の架け橋として活躍することが期待されている。(営業部門申請)

■地域賞

FM 仙台／Pray「祈り」から、Hope「希望」へ。音楽をキーワードに発信する震災復興応援プロジェクト Date fm「Hope for MIYAGI」

震災翌日から 3 週間にわたり、被害が甚大であった沿岸エリアからラジオ・カーで中継を実施し、復興に向け動き出した人々の声を届けた。また、宮城県内にあるコミュニティ FM 局と臨時災害 FM 局の計 13 局すべてを訪問し、復興に向けての活動等についてリスナーに届けた。3 月 19 日からの 4 日間には、県内 4 箇所で開催録音を実施し、東北ゆかりの佐藤竹善や高橋優等のアーティストを招き、歌と勇気と希望を届けた。震災から 1 年後には「Pray for MIYAGI」から「Hope for MIYAGI」にタイトルを変え、引き続き被災者目線の支援プロジェクトを継続させている。(番組部門申請)

■地域賞

FM 大阪／「LIVE FOR SMILE in Hieizan ～ TATUYA ISHII SPIRITUAL CONCERT 2011 天

夕紅山 in 比叡山延暦寺」

FM大阪が東日本大震災に遭った子どもたちの笑顔と健やかな未来のために立ち上げた「Keep On Smiling For Children Project」。このプロジェクトの創設にあたり、2011年10月15日、日本仏教の源である総本山 比叡山延暦寺にて、被災した子どもたちの未来と被災地の早期復興のために特別法要と奉納を行った。この趣旨に賛同した石井竜也氏が特別法要に参列し、奉納ライブコンサートを実施した。ライブは約1,000人の参加者を集め、その模様はJFN38局のほか、地上波テレビにてもオンエアされた。(番組部門申請)

■地域賞

FM山陰／新感覚県政広報番組 おがっちの「島根歴史学講座！みたいな！」

古事記編纂1,300年を契機に改めて故郷島根の歴史と魅力を県民に再認識してもらおう島根県庁の番組企画コンペをAM局との競合の末、平成23年度の予算を獲得。堅苦しく捉えられがちな県政広報番組であるが、歴史を学ぶこと以上に故郷を知ることが重視した番組内容にし、詰め込み過ぎず、また、金曜夕方の人気生ワイド番組内にて展開したことが功を奏し、昨年から続いて平成24年度も継続が決定している。(番組部門申請)

■地域賞

FM福岡／『防災スペシャル「夏休みラジオ工作教室」』

東日本震災を契機にメディアとして再評価されたラジオ。防災端末としてはもちろん、日常からよりラジオに親しみを感じてもらえることができる「夏休みラジオ工作教室」を開催した。福岡市と北九州市にて、それぞれ30組の親子を募集したが、リスナーからの反響は高く、すぐに定員を満了した。スポンサー満足度が高いだけでなく、若年層のリスナー開拓、円滑な親子間のコミュニケーション、子どもたちへの情操教育などに役立つ好企画となっている。(営業部門申請)

◎ JFN賞・CM部門

JFN加盟38社のCM制作の向上とCMを通じて地域社会の文化に貢献することを目的として優秀CM作品を表彰するのが「JFN賞・CM部門」です。

今年の審査対象作品は2011年6月1日から2012年5月31日までの間、JFN加盟各局が自社で企画または制作、放送したCMです。斬新な発想や演出と技法、地域性、公共性、影響力(CM効果)が審査基準となります。エントリー総数117本の中から大賞のほか、部門各賞(20秒以内、21秒以上)、加盟各局が協賛企業(今年はキリンビール株式会社「麦のごちそう」)のCM制作を競う統一部門が決定しました。特別審査員長の天野祐吉氏(コラムニスト)、そして、小野田隆雄氏(コピーライター)、弘兼憲史氏(漫画家)の特別審査員をはじめ、企業審査員、JFN各局のCM制作担当者38名により公開審査会が行われ、以下の各賞が決定しました。

【JFN CM大賞】

TOKYO FM 「走馬灯」(キヤノンマーケティングジャパングループ/120秒)

【第1部門 最優秀賞】※20秒以内(エントリー数=50本)

FM沖縄 「ジョージア ザ・沖縄ブラック 沖縄方言」(日本コカ・コーラ株式会社/20秒)

【第2部門 最優秀賞】※21秒以上(エントリー数=29本)

TOKYO FM 「子どもに質問」(SAVE THE CHILDREN JAPAN/120秒)

【統一部門 キリン 麦のごちそう賞】 エントリー数 40秒=38社38本

FM熊本 「ケンカと乾杯」(キリンビール株式会社/40秒)

【JFN学生ラジオCMコンテスト2012】

最優秀賞 河内 明日美さん(東日本調理師専門学校/40秒)

優秀賞 太田 陽介さん・笹尾 進さん(広告デザイン専門学校/40秒)

優秀賞 山下 峻史さん(山口芸術短期大学/20秒)

【奨励賞】

○地域ブロック賞

- ・北海道・東北 AIR-G' (FM北海道) 「道南・函館 旅先ガール」
(社団法人北海道観光振興機構/60秒)
- ・関東・甲信越・静岡 TOKYO FM 「きょうの夫婦 その3」(味の素株式会社/20秒)
- ・中部・北陸 FMとやま 「話をしよう〜母娘〜」(トナミ運輸株式会社/40秒)
- ・近畿・中国・四国 FM大阪 「口癖」(環境EVO T事務局/60秒)
- ・九州・沖縄 FM鹿児島 「二人のはじまり」(さつま無双/60秒)

○出演者賞：TOKYO FM 「きょうの夫婦 その3」(味の素株式会社/20秒)

○コピー賞：FMぐんま 「こころのスイッチ」(FMぐんま/60秒)

【制作者審査員賞】

TOKYO FM 「走馬灯」(キヤノンマーケティングジャパングループ/120秒)

【天野祐吉賞】

広島FM 「“お好み” お好み焼き」(麒麟ビール株式会社/40秒)

【小野田隆雄賞】

FM山口 「笑いが止まらない」(麒麟ビール株式会社/40秒)

【弘兼憲史賞】

FM鹿児島 「都会のふるさと」(さつま無双/60秒)